

## 新町家のすすめ 建築実例 物件情報シート

建物名：南禅寺 I 邸

### 建物写真



### 建物概要

行政区：左京区

建築年：2016年

敷地面積：350.16㎡

建築面積：121.11㎡

延べ面積：174.06㎡

構造：木造

階数：2階

本体価格：

建築主：(任意)

設計者：滝本一級建築士事務所

施工者：ツクシ工業株式会社

### 設計コンセプト・ポイント

左京区・哲学の道に近い立地であることをふまえて建物自体の趣き、隣地や哲学の道から眺めた時の美しさ、山々を眺めた美しさを演出して静かなたたずまいと生活空間を計画しました。

近隣の門構えに合わせ、通りの趣にも配慮しました。

狭い道路事情に配慮し、車の通行にも安全な配置計画としました。

内部環境は京町家にならい、間仕切りはふすま用いて仕切り、場合によっては外して広間として使用したり、離れの居室は全て畳とし、二面を庭に面して季節の移ろいを座敷から楽しめるようにし、風も通るように計画しました。

該当する指針の欄に、具体的な内容を記入してください(取り入れていない指針の欄は空白で可)

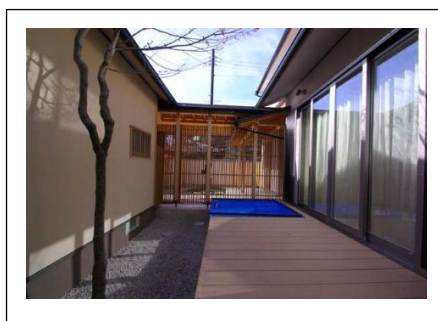
指針1 まちに暮らす ～隣地の状況を踏まえて建物配置を計画する～



建物部分を低く抑えて景観に配慮しつつ、比較的大きな敷地が多い近隣の街並みにならない、景観に適した高塀と門構えとしました。門の前に人溜まりのスペースを設け狭い道に人が溜まらないように配慮しました。

角地の角は、駐車スペースとして建物を控えたデザインにしました。また隣の要望で向かいにあるお寺のお堂が見えるようにして欲しいという希望をかなえ平屋の離れを配置し高さに配慮しました。

(指針 1-1)



近隣は高塀や高木の生垣を用いプライベート空間を大事にされていたので、本建物も、濡れ縁側の掃き出し窓等の大開口部の前には庭などの空間を置き、外周は空間と生垣、高塀で囲いを設ける等、近隣に配慮しました。

(指針 1-2)

指針2 場所になじむ ～地域特性や歴史を踏まえて設計する～



哲学の道に近く、光雲寺にも近い街並みに調和するように建物を山側に寄せて配置することにより、景観になじむよに工夫しました。

(指針 2-1)

前の通りからも哲学の道からも風情を配慮して平屋離れを手前に設け、棟を分け圧迫感を避けたファサードとしました。勿論近隣からの要望も拝聴し考慮しています。(お堂や山が見えるよう配慮や電線の移設など)

(指針 2-2)

町並みも綺麗に見えるように、外周廻りは近隣に合わせ塀を配置し、エアコン室外機、給湯器設備などは外部から見えない位置に配置しました。

(指針 2-3)

### 指針3 季節や自然を楽しむ ～季節や自然を楽しめるよう工夫する～



離れと主屋を別棟にすることにより、東西、南北に風が通り抜ける庭空間を配置致しました。門扉～玄関のアプローチには存在感のある楓の木を配し、日々四季移ろいを感じることができます。

(指針 3-1)

庭に面した来客用の離れには茶道に用いる炉を切って床の間を配し、茶室として季節と和の趣きを大切にしたい暮らしを楽しむことができます。

(指針 3-2)

日射角度を計算し、軒の長さを確保しています。夏の強い日差しはカットし、冬の優しい日差しは室内に招くようにしました。

(指針 3-3)

### 指針4 大切に使う ～大切に長く使い続けられるよう工夫する～



建物外周には十分なスペースを確保し、外壁のメンテナンスが行いやすいよう配慮しました。天井川の地域のため床下の湿度を考慮し床下換気扇を配置し腐食などによる建物の劣化が発生しにくいように配慮しています。勿論交換は外から容易に行えます。

(指針 4-1)

真壁や土庇の柱など、手の触れる部分や目に留まる天井板、長押、床など細部にも天然木材を使用しました。

(指針 4-2)



また木材の塗装は手垢止め程度にし、経年により趣のある色になるようにしました。また下地窓は左官仕事を行い経年で焼けを楽しめるようにしました。

(指針 4-3)

間仕切りにふすまを設け多様な利用が出来るようにしました。勿論、5尺8寸としていますので簀戸（竹で粗く編んだ戸）もご利用できます。

(指針 4-4 4-5)

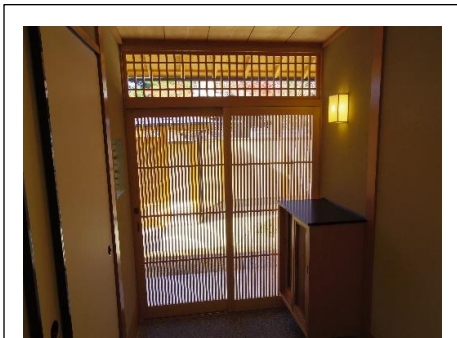
指針5 和の技を感じる ～伝統技術・技能をいかす～



離れ自体を数寄屋作りとしており、下地窓、格子戸を設け、下足入れ、照明を指物で製作するなど伝統的な技法で臨んでいます。浴室も、桧や高野槇を用いて和風呂を設えました。

玄関は玄関戸に木格子を用い、下地窓を設け、下足入れ、敷台なども天然木を用い伝統的な「和」を感じる設えとしました。外部開口は出来るだけ木製建具を用いるようにし、視覚的に優しいデザインにしました。

(指針 5-1)



和室には当然本畳、障子、襖を設け、掃き出し窓から庭が望めるようにしています。いわゆる伝統的な「和」の座敷その物です。

(指針 5-2)

